

## 澁谷政策調整統括官ぶら下がりの概要

日時：6月11日（火）16：00～16：12

場所：アメリカ・ワシントン

（澁谷統括官）

昨日と今日とですね日米貿易交渉の実務者協議を行いましたのでご報告を致します。昨日朝の10時からUSTRの別館で協議が始まりまして、最初は全体会合ということでお互いのチームの顔合わせという事でありまして、日本側からは私以下内閣官房、それから外務省、経済産業省、農林水産省の幹部が出張に来ております。米国も代表はビーマン代表補、この日米貿易の担当でございますが、それに加えて工業品、農産品のセクター別の担当の方々が参加をされたということでありまして。最初の15分で全体会合が終わりまして、その後は農業のセッションに入りました。内閣官房と農林水産省、それからUSTRの農産品担当ということでありまして、初日は10時15分から行い12時30分で昼休みに入り、昼からは13時30分から15時30分くらいまで行ったと思います。昨日は農業のセッションで終わりました。今日は9時30分から工業品のセッションを始めまして、一旦昼前にそれが終わりまして、その後、昨日の若干の積み残しがあったので、13時30分から15時くらいまで農産品のセッションを行いました。それで二日間の協議が終わりということでありまして。

率直な感想ですけれど、非常にお互いにとって意味のある協議だったのではないかなと。日米協議が始まって、ずっと茂木大臣とライトハイザー通商代表の協議という形で交渉が進んできたわけでありまして、今回初めてそれぞれの農産品、工業品の担当同士が顔を合わせて、お互い率直な、お互いの立場を説明するだけでなく、色々聞きたかったことがお互いたくさん溜まっていたわけで、その質問をお互いに随分して、事実関係の確認等が多いのですが、そこはお互いにとって非常に良かったのではないかと思います。必要な事実関係の確認も行いましたし、それから茂木大臣が明後日こちらに来られて、ライトハイザー通商代表と明後日の午後協議をする予定となっているので、閣僚協議に向けた論点整理もいたしました。農産品、工業品についてお互い全般的に話をやったわけですが、その中でこの問題は閣僚で議論していただく必要があるとかそのようなソーティングとか仕分けをしたということも一つ大きな、協議にとっては大事なことだったのではないかと思います。

もちろん実務者の協議、今回が初めてでありまして、TPPの時から担当者がある人もいましたし、そうじゃない人もいたので、私も昔から知っている人もいましたが、今回初めてお会いした人もいたということでありまして、お互いに今回は非常に、大激論をしたというよりは、お互いの立場をそれなりに尊重しつつ、どうやってその立場を埋めていくかということを実務担当者として、専門的、技術的な見地から色々議論してきたということじゃないかと思います。この日米協議は、閣僚レベルの協議というのが基本となっていますので、今回実務者協議を行って、その後閣僚同士で木曜に行っていただくわけですが、その後の進め方をどうやって行くかも含めて閣僚でご議論を行っていただくことになるのではないかと思います。私からは以上です。

（記者）

今回の協議の中で、アメリカ側からはこういった要求なり、特に農産品と自動車のところですね、あれば教えてください。

（澁谷統括官）

日米交渉に限らないんですけども、この手の通商交渉、TPPの時もそうでしたが、こういう場で、お互いに先方が何を言ってきたかということは、言わないというのが通常の約束事でありまして、それをきちんと守ってお話しをしないといけないと思いますが、非常に全般的な話をお互いにしたということだと思います。

(記者)

先ほど、お互いの立場を尊重しつつ埋めていく作業だったということで、前回の実務者協議もお互い開きがあるねということで認識は一致したと思うのですが、今回、お互いの距離というのは今現時点でどのような位置にあるのでしょうか。

(澁谷統括官)

前はハイレベル事務協議と言っていて、今回実務者協議という言い方で、微妙に日本語変えているんですけども、前は梅本首席と私と、内閣官房の、要は窓口の人間と、向こうのやはり同じような我々のカウンターパートとお話をしたと、セクター別の担当はお互いに参加せずに議論したわけですけども、今回初めてセクター別の担当者同士が直接顔を合わせて、色々議論というか、かなり質問のやりとりが多かったと思いますけれども、その質疑を通じてですね、我々は、あくまで内閣官房としては全体の取りまとめ、窓口役ということなんですけれども、直接の担当者同士だとまた、事実関係について色々確認したいことがお互いに溜まっていたということがあって、それをお互いにずいぶんやり取りができたというのは、良かったんじゃないかなと思います。

(記者)

やっぱりお互いに、まだ詰めなきやいけない距離があるなあ、ということでしょうか。

(澁谷統括官)

そうですね、距離を詰めるのは、基本は閣僚協議ということになるんだと思いますが、それをどういう順番でどういう風に詰めていくのかということとは、ある程度事務方で、論点整理が必要だということで、今回やったわけですけども、ある程度、その論点を整理することはできたんじゃないかと思います。

(記者)

今回、農産品ですとか工業製品の担当者が直接来られて論点を整理されたということですけども、確認ですけども、去年9月の日米共同声明で確認された、あくまで物品の域を出ないということは大前提として、今日は改めて確認されているということによろしいでしょうか。

(澁谷統括官)

元々物品の担当が、今日議論したと、そういうことです。

(記者)

その方針は変わらないことは…。

(澁谷統括官)

それは、4月に本格的に交渉が始まる際に、ライトハイザー代表と茂木大臣で、これは確認をしているということです。

(記者)

今回の実務者協議を通じてですね、今週末というか木曜日の茂木大臣とライトハイザー代表との協議というのはどのような見通しでしょうか。

(澁谷統括官)

それはやってみないとわからないというのがいつも閣僚協議なんだと思いますけれども、ただ2週間前ですかね、日米首脳会談でトランプ大統領と安倍総理の間で、茂木大臣とライトハイザー代表とのこの日米協議、更に加速させるということで一致をされたということでありますので、そういう思いで、お二人で議論されるんじゃないかと思います。

(記者)

今回の協議は、事実関係の確認という部分がメインだったと思うのですが、お互いの求めることや、それぞれこういった立場なんだよということも主張しあう場ではあったのでしょうか。

(澁谷統括官)

お互いの立場は閣僚レベルで十分主張しあっているわけですので、それをまた言う事にどれだけ意味があるかよくわかりませんが、お互いによく知っているお互いの立場を前提にそれを埋めるために実務者としてできるものは何かとそういった観点で色々議論してきたという事でありませ

(記者)

閣僚協議に持ち越すというか、閣僚の間で話し合わなきゃいけないねという部分は、具体的にはどのようなラインものなののでしょうか。

(澁谷統括官)

それを言うと中身の話になるのですよね、そこはさすがに控えた方がいいと思います。

(記者)

今後の進め方も閣僚で決められることだとは思いますが、今回のように事務方協議をやって閣僚協議をやってという、この交互にやっていく進め方が今後も続いていくということでしょうか。

(澁谷統括官)

交互にやるかどうかはわかりませんが、今日みたいな形かどうかは別にして、最終的に実務者で相当詰めないといけないというのは、これはお互いそういう認識だと思いますので、今日は実務者協議最後ということは、これは絶対はないと思います。ただ、議論の順番をどうするかとかですね、レベルをどうするかというのは、これからまた閣僚でお話されるのではないかと思います。

(記者)

実務者協議の中で、各タリフラインに対するオファーというんですか、その作業というのはもう始まったということでしょうか。

(澁谷統括官)

まだ実務者協議、今日が初めてということですので、やはり事実関係の確認というのが大きかったんじゃないかと思います。日米協議ですね、いわゆるTPPの時のように、まず事務方だけが集まって、しばらく事務方だけで協議して、閣僚というのはもうちょっと煮詰まってからやるという性格のものではなくて、わりと閣僚協議がメインで動いているところがありますので、通常の、そういうTPPのような交渉とはまた違うやり方になんじゃないかと思います。

(以上)